

令和元年度 学校評価実施報告書

学校番号 076

学校名 千葉県立下総高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>1 各種広報活動を積極的に行うことができた。 ・近隣小中学校・近隣公民館での出前授業を実施し、教員が本校の魅力を紹介した。 ・下総みどり学園と食育・農業体験・プログラミング学習等による連携授業を展開した。年間を通じた取り組みにより新たな連携テーマを設定することができた。 ・HPの記事を頻繁に更新し、本校の今を伝えることができた。また、学校メールを活用し、連絡をすることで、学校への質問は減少し、自然災害における対応が迅速にできた。</p> <p>2 学校設定科目「ベーシックI」で少人数指導の拡充を図り、特に数学で入学前と入学後で理解度の向上が図られた。</p> <p>3 退学者数は、12月末現在で、昨年度が18名だったのに対し、今年度は10名と減少しているが、転学等を含めると14名である。特別指導件数は12月末現在で、昨年度が18件、今年度は22件である。</p> <p>4 園芸科、自動車科、情報処理科の日頃の教育活動が各種大会や資格取得、地域連携の場で発揮された。</p> <p>5 教職員の在校時間等の状況 80時間超過職員は、調査月の6月12名、平均45時間30分、11月8名、42時間30分と少し減少した。</p>	<p>1 出前授業を生徒の学習の機会ととらえ、生徒が主体的に関われるような出前授業の形態を模索する。 引き続きホームページによる情報発信の重要性を全職員で共有し、記事の精選や見やすさの改良に努め、生徒募集広報にも役立てる。</p> <p>2 習熟度別展開や少人数授業で個に応じた指導を行い、基礎・基本となる知識や技術を確実に身につけさせる。また、わかる授業・楽しい授業に向け、継続して授業改善に努める。 学校設定科目「ベーシックI」についても、基礎学力が一層確実に定着するよう教材の精選や展開方法の改善に努める。</p> <p>3 学校教育のあらゆる場面を通じて自己有用感・自己肯定感を高めるとともに、生徒指導の充実と家庭との緊密な連携により、退学者の食い止めを図る必要がある。</p> <p>4 各専門学科とも、生徒の基礎学力及び専門知識の着実の習得が図られるよう、教育課程を確実に実施するとともに、生徒理解に努め、教職員間の共通理解と個々の教員の指導力の向上に努め、家庭との連携を密にしなければならない。</p> <p>5 働き方改革の推進と勤務時間を意識した勤務への取組として、業務の質的転換及び量的削減、精選を図り、生徒に対して効果的な教育活動ができるようにする。</p>
学習指導	<p>1 学校評価では「授業に満足している」と回答した生徒が74.8% (昨年70.1 一昨年67.5) など、この2年間で7.3%上昇した。生徒が主体的に学ぶ授業展開を行うようになった結果である。</p> <p>2 授業公開を4回実施したが外部からの参観者が少なかった。</p> <p>3 授業研究に十分時間が割けない、基礎学力の定着に時間がかかるといった意見が多く聞かれた。</p> <p>4 校内授業研究は、若手の研究授業を兼ねて開催され、中学校初任研受け入れるなど、学校種や教科の枠を越えた意見交換がなされた。</p> <p>5 資格取得のための補習や補講を計画的に取り入れ、全ての学科で資格取得を目指し、目的をもって生活することができた。</p>	<p>1 生徒がより主体的に学べるよう、主体的・対話で深い学びの実践により更なる授業改善を図る。また、授業内容がわからない生徒を減少させ、理解が進んでいる生徒へは発展的な課題を示す等個別の支援と対応を図る。</p> <p>2 案内文書の配付範囲、校種等を見直す。また、授業内容が具体的にわかるような記載とする。</p> <p>3 授業準備や基礎補習に十分な時間が割けるように、業務の精選や効率化を推進する。</p> <p>4 どの年代も進んで公開授業を実施し、指導力の向上と新しい教育技法の習得を主体的意欲的に行う。</p> <p>5 日々の補習・補講の実施と拡充、個別の支援等を重ね、多彩な資格取得に取り組みせるとともに、キャリアパスポートを計画的に活用し、将来の目標と実現に向け努力する姿勢を育てる。</p>
生徒指導	<p>1 遅刻率1日平均1.6人(昨年度1.5人、一昨年度2.1人)と減少し、出席率98.2%(昨年度96.7%, 一昨年度96.9%)へ向上するなど生徒に対する呼びかけ等の成果が表れた。</p> <p>2 部活動清掃や部活動集会等、活動の活性化を図った。また放送委員や風紀委員会等で、中間的生徒の積極的な生徒指導を促進した。</p> <p>3 DV防止講話等の講話時に感想を書かせ、理解を深めた。</p> <p>4 いじめや体罰について被害調査をマニュアルに基づいて組織的に行い実態把握に努めた。申し出のあった生徒からはすべて事情を聴き取り適切に対応した。</p>	<p>1 生徒への呼びかけによる指導を継続し、指導の効果を高める。</p> <p>2 学校として部活動の精選を検討しつつ、部活の活性化と活動時間のバランスを図っていく。</p> <p>3 実施した講話内容を振り返り、現在抱える生徒指導上の課題について実状にあった内容を検討し、より実践的で生徒の意識を高めるような講話や全体指導を企画する。</p> <p>4 被害調査の実施継続と共に、職員の日頃の教育相談的技術向上と報告・情報共有から問題行動の早期発見・対策を講じていく。</p>

生徒指導	<p>5 個人面談を学期に一度組織的に実行した。また、カウンセラー等との連携を図った。</p> <p>6 市町村関係機関や警察、児相との連携を促進した。</p> <p>7 4月に部活動集会を実施する等、部活動の活性化を図った。</p> <p>8 いじめに関する内容の生徒指導部だよりやカウンセラー便りを発行し、全校生徒に配布することで、一人で悩みを抱えないようにした。また、全校生徒に対する講話を行い意識の醸成を図った。</p> <p>年3回、被害調査を含め組織的で徹底した対応を行い、いじめの早期発見・早期対応に努めた。また教育相談委員会との連携を密にした。</p> <p>初任・臨任をはじめとして、いじめ防止研修を年3回実施した。</p> <p>9 障害を持つ生徒に対する合理的配慮等について職員間で共通理解を図り、保護者との合意形成を図ったうえで組織として取り組んだ。</p>	<p>5 地域特別支援教育コーディネーター等との連携を深化していく。</p> <p>6 保護者との連携を継続していく。また、特別支援の視点も踏まえた指導を実施する。</p> <p>7 部活動集会に加え、部活動清掃等の活動もリンクし、更なる活性化を目指す。</p> <p>8 いじめについては、日頃から校内はもとより保護者・外部機関も含めて連携協力体制を構築し、今後も早期発見努め、組織的に対応する。</p> <p>更に計画的な職員研修をするなどして資質の向上を図り、生徒の命を守る教育を充実する。また、授業や委員会活動といったすべての教育の機会を活かし、いじめや自殺防止に関し、生徒の自己肯定感を高める指導を展開していく。</p> <p>9 中学校や関係機関との連携や生徒理解のための中学校訪問を実施することで生徒に関する有効な指導上の情報を収集し、情報共有や研修を実施することで途切れない学習の支援や生活指導面に役立てる。</p>
キャリア教育	<p>1 進路決定率97.1%(決定102名 未定3名)。</p> <p>2 学年生徒全員と1学年希望生徒に対して、成田地区の合同進路説明会を計画した。</p> <p>2 1～3学年で計画的に進路ガイダンスの実施や外部講師や進学希望先の専門学校によるガイダンスを実施した。</p> <p>3 就農体験実習や地域のイベントに農業を学ぶ2・3年生の生徒が参加し生産物の販売や就農体験、共に学ぶ生徒との交流や学校の広報を行った。</p>	<p>1 インターンシップへの参加が進路先の内定へつながらないので、キャリアの生成のためキャリアパスポートを有効に活用していく。</p> <p>2 生徒が進路活動に積極的に取り組めるガイダンス内容を設定する。併せて進路資料室・進路相談室の活用方法の指導を1年生から始める。求人情況の照会方法の改善も図る。</p> <p>3 後継者育成について学校の現状を農業事務所に伝え、講座の充実を図る。実習については体験受け入れ農家の確保と積極的な参加を促す。引き続き本実習の意義と効果を生徒に示していく。</p>
特別活動	<p>1 LHRを計画的に実施した。また、文化祭などの学校行事の活性化が図られた。</p> <p>2 学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動等を年間計画に沿って実施し、生徒の主体的な態度が養われた。</p>	<p>1 LHR等の効果的な計画策定を継続していく。</p> <p>2 学校行事、生徒会活動の活性化を継続する。具体的には、生徒会や評議委員会等での活動内容を検討し、自主的・実践的な態度の育成を図っていく。</p>
特色ある教育活動	<p>1 環境教育モデル校として3学科協働のプロジェクト(下総・eco・イルミネーションプロジェクト)に取り組んだ。その成果をまとめたポスターは、魅力ある県立学校づくり大賞で優秀賞を獲得した。</p> <p>学校行事として課題研究発表会を実施。全生徒が各学科で取り組んだ優秀な研究について知る機会を設けた。</p> <p>2 寮での集団生活を通じて、自主性、協調性、豊かな人間性等を身に付けることができた。今後の高校生活に活かすことが期待できる。</p> <p>3 生産技術科、園芸科では、全員が農業クラブに加盟し、千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会では、プロジェクト発表や意見発表に出席し、日頃の活動の成果を披露した。また、県内の農業高校の取り組みや地域的な課題について知ることができた。研究発表大会・農業鑑定競技など校内外の農業クラブ活動を定期的にHPに掲載し、PRに努めた。</p> <p>4 航空車両整備科・自動車科では、日々の授業や実習を通じ専門知識・技術を身に付け、自動車整備士3級合格を目指した。</p> <p>5 情報ビジネス科・情報処理科では、検定受検を積極的に進め、多くの生徒がより高い資格を手にした。また、職業人として備えるべき技能やマナーを身に付けさせ、社会人基礎力の向上が図られた。</p> <p>6 ユネスコスクールとしての活動を、生徒会活動や産業教育と関連づけた上で、地域に根ざしたテーマ設定に基づき学科横断的な手法で推進した。</p>	<p>1 ユネスコスクールとしての活動の整理と、課題研究活動の活性化を図るために地域の各種団体と協働できるような環境づくりが必要である。</p> <p>2 寮教育においては、寮設置の本来の意義を忘れることなく、生徒個々の成長が図れるようさらに指導内容の充実を図る。</p> <p>3 農業クラブ活動においては、現在、研究発表大会では県大会止まりなので、今後は県大会突破を目指していく。また、今後、グローバル的な発想とローカル的な活動のシンクロを図る必要がある。</p> <p>4 自動車科では、現在約70%である自動車整備士試験の合格率をさらに向上させる必要がある。</p> <p>5 情報処理科では、資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。また、生徒の進路に対する意識を高め、目的意識を持って学校生活を送る。また、課題研究を中心とした授業を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>6 本校の様々な教育活動を「持続可能な開発のための教育」の視点から捉え直すことにより、個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力の向上を図る。</p>

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	令和元年度学校評価実施報告書をホームページに掲載する。 また、第1回開かれた学校づくり委員会で提示する。
----------------------------	---

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p>1 ホームページにより、学校行事の概要が紹介されているので、生徒の活躍の様子がよく分かる。</p> <p>生徒一人一人が将来に目標を持って、生き生きと活動している様子がよく分かります。このままの下総高校であることを願います。</p> <p>地域行事にもよく参加し、日頃の教育活動の成果を発揮してくれている。地域の期待も大きく、今後も積極的に取り組んでもらいたい。</p> <p>2 自然災害の対応が迅速でとても感謝している。</p> <p>3 生徒指導については、多様な生徒が在籍したいへんな部分であろうが、一人ひとりの生徒やその家族の幸せを考え、きめ細かな対応をして欲しい。</p> <p>4 産業教育の面では、資格取得に大きな成果が上がっているとのことである。進路活動とも関わる大切な部分でもあるので積極的に取り組んで欲しい。</p> <p>5 学校の施設設備面で5.5%低下している。施設設備の老朽化により、エアコンが効かないので修繕やトイレの洋式化をお願いします。</p>	<p>1 本校の教育活動を外部へ発信する際、ホームページは最大のツールとなっている。その点を教員間で再確認し、記事の充実と更新の迅速化を推進する。また、学校目標や教育課程等本校の基本情報を掲載する場所でもあるので、特に受検生の要望に十分応えられる記事の構成に努めたい。</p> <p>地域連携は本校にとって極めて重要な事業である。平素から関係団体との連携を密にし、教育課程と関連づけた上で3学科とも積極的に取り組みたい。</p> <p>2 学校の情報発信として、ホームページだけでなく、メールでの配信にも力を入れ、今後も災害時や不審者情報、学校からの連絡等にも活用していく。</p> <p>3 学校教育のあらゆる場面を通じて自己有用感を高めるとともに、生徒指導の充実と家庭との緊密な連携により、進路変更者を減らし、本校での卒業を目指す指導が重要である。</p> <p>4 各専門学科とも、教育課程を確実に実施することにより、基礎学力と専門分野の知識技能との確実な習得に努め、専門高校で学ぶ誇りと自信を身に付けさせなければならない。</p> <p>5 施設設備については、老朽化も進んでいるので、整備しながら維持すると共に要望もしていく。</p>
学習指導	<p>1 先生方の努力によって、授業が分かりやすく生徒の授業に対する満足度が上がり、授業を楽しいと考えていることが課題研究発表会からもよく分かる。もっと、一般に公開すべきである。</p> <p>2 補習や検定前の取組など夜遅くまで指導していただき、感謝している。学習面で、資格の情報をもっといただけたらと思う。</p>	<p>1 授業においては、基礎・基本を重視した上で、「わかる授業」「身につく授業」を展開し、基礎学力の確実な定着を図る。また、授業に対する満足度も3年連続して上昇しているが、さらに多くの生徒に十分な成就感を味わってもらえるよう、指導体制の拡充に努める。また、教科指導の様子等は、外部の方にわかりにくい部分なので、ホームページでの紹介の回数を増やすとともに、授業公開の機会を頻繁に設け、より多くの人に実際の授業を参観していただきたい。</p> <p>2 検定試験の実施時期やその対策を計画的・継続的に実施していく。</p>
生徒指導	<p>1 学校評価アンケートの結果では、現在の生徒指導体制を肯定的に受け止める意見が増加している。</p> <p>2 退学する生徒が少しでも減って欲しいです。</p>	<p>1 具体的な指導方法について職員の十分な共通理解を図った上で、学校生活のあらゆる場面においてきめ細かな指導を展開し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める状態を保つ。</p> <p>2 保護者との連携を緊密に図り、学校と家庭とが協力しあう中で生徒が成長を図れるような体制を作る。スクールカウンセラーとの一層の連携強化に努める。誰にも相談できない生徒からのサインを見逃さないよう全職員で情報を共有しきめ細かな指導にあたりたい。</p>
キャリア教育	<p>1 学校評価アンケートの結果では、進路指導についての生徒及び保護者の評価は3年連続して向上している。進路実績についても順調に推移している。現在の指導体制をさらに拡充させ、進路説明会の充実や就職先の新規開拓等に力を注いでいただきたい。</p> <p>2 各学科の学習内容が活かせる職場に就職できることが望まれる。</p>	<p>1 1年生から適切なキャリア教育を展開し、各専門学科での学習内容と連動させた上で、早い段階から望ましい職業観、勤労観を身に付けさせ、希望する道に進めるように指導する。</p> <p>2 年度末で3名程度の進路未定者がいる。次年度は全員の進路が決定するように、</p> <p>(1)就職希望者の選択の幅を広げるための企業開拓 (2)1・2年の段階での意識付け (3)情報収集や資料閲覧方式の指導</p>

		(4)履歴書作成や面接対応に係る個別指導等の充実 に力を注ぎたい。
特別活動	<p>1 学校評価アンケートでは、生徒・保護者から、文化祭やスポーツ大会が活発であるとする評価が得られた。これは、生徒会・農業クラブ等の活動を通じて、自主的・実践的な態度が育成されていることの裏付けであろう。</p> <p>2 HRは生徒の学校生活の基盤となる場で、学校教育の基本組織であり出発点である。諸課題に対応するため、LHR年間計画をしっかりと立て、効果的に展開することが望まれる。</p>	<p>1 学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動ともに、ある程度は生徒主体で運営されるようになったが、まだ教員がリードする部分も見られる。今後は生徒主体で運営できるように指導と意識付けを行う。</p> <p>2 LHRは、直面する課題の対応に使う場面が多く、年間計画どおりに進まない状況が生じている。次年度は、ホームルーム活動として本来の内容が展開できるように改善を図る。</p> <p>3 長年の課題であった3学科が連携した教育事業として、今年度は課題研究発表会として協同して開催することができた。次年度以降は、生徒主体の事業の開催に向けて準備を進める</p>
特色ある教育活動	<p>1 環境教育モデル校として取り組んだ3学科協働のプロジェクト（下総・eco・イルミネーションプロジェクト）が魅力ある県立学校づくり大賞で優秀賞を獲得したのは見事であった。この事業は、外部に本校の教育課程を教育活動に位置づけたもので、アピールする意味でも高く評価できるものである。</p> <p>2 各学科の教育や生徒会活動等をユネスコスクールの取り組みと捉え、今後も地域に根ざしたテーマ設定や学科横断的な事業の推進に力を注いでいただきたい。</p> <p>3 本校の寮教育は、協同生活を通じて生徒が豊かな人間性を養うすばらしい場である。運営については苦労も多いことと思うが、今後も寮教育を本校の特色として捉え、継続して実践していただきたい。</p> <p>4 各学科における資格取得や農業クラブの活動等も継続して推進して欲しい。</p>	<p>1 ユネスコスクールとしての活動については、本校の様々な教育活動を「持続可能な開発のための教育」の視点から捉え直すことにより個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力を向上させる方向で推進すべきである。</p> <p>ただし、校内の運営体制及び主管部署については見直しを行い、効率的に事業が進められるよう推進主体を明確にすべきである。</p> <p>2 寮教育については、基本的な生活習慣の確立・人間関係作りは概ね達成しつつあるので、今後は生徒による自治という面について意識的に進めていく必要がある。</p> <p>3 農業クラブについては、校内での活動を目に見える形で活性化させる必要がある。</p> <p>4 今年度、3学科の課題研究代表発表会を合同で開催することができた。次年度はさらに内容を充実させるとともに、近隣校等にも公開することを検討したい。</p> <p>5 資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。</p>